

### [成果情報名]耕作放棄地におけるタラノキの粗放栽培

[要約]耕作放棄地においてタラノキを栽培する場合、植え付け時に防草シートを設置すると、欠株が少なくなり生育も良好となる。欠株には10cmの種根をポット育苗したものを補植する。植え付け2年目以降は、除草を年1回としても3年目には60kg/10a程度収量を得ることが出来る。

[担当]総農セ・高冷地振興セ・野菜作物科・石川寛人

[分類]技術・普及

---

[課題の要請元]農政総務課、各直売所生産組合

### [背景・ねらい]

本県においては高齢化などによる労働力不足や中山間地での土地条件の悪さなどにより耕作放棄地が増加している。一方、タラノキは本県では中山間地を中心に、省力的で高齢者でも栽培できる作物として栽培が増加しており、農産物直売所などで販売されている。

そこで、耕作放棄地の利活用を目指し、そのなかの一つの選択肢としてタラノキを用いた耕作放棄地の管理方法の確立を図る。

### [成果の内容・特徴]

1. 植え付ける際に株の周りに防草シートを設置すると、除草を年1回としても欠株が少なくなり、タラノキの生育が確保され、3年目には10a当たり60kg程度の収量が得られる(表1、2、図1、2)。
2. 欠株には、10cmの種根を60日ポット育苗した苗を補植する(データ略)。
3. ほ場管理作業は、植え付け1年目はほ場準備(刈払い、残渣片付け、除草剤散布)や防草シート設置に時間を要するが、2年目以降は30時間程度である(図1、表3)。
4. 植え付け3年目までの所得を試算すると植え付け1年目は、約13万円の支出であるが、3年目には20万円程度の所得が見込まれる(表4)。

### [成果の活用上の留意点]

1. 試験は、北杜市(標高約1,000m)の12年間作付けが無いほ場において、灌木や雑草の地上部刈払いのみ行った後、実施した。
2. タラノキの供試品種は、立枯疫病耐病性品種の「蔵王2号」である。
3. 補植苗は紙ポットなどを利用し、根鉢を崩さないように定植する。
4. 雑草の刈払いは雑草草丈がタラノキの樹高を超えるのを目安に実施し、ほ場の雑草生育が旺盛な場合や、つる性雑草が繁茂した場合は、除草を適宜実施する。
4. 株間の雑草は、刈り取った雑草やわらを敷いて発生を抑える。
5. タラノキの1年生株から50本程度の種根が採取でき、自家増殖可能であるが、その際は本ぽと分離した種苗養成専用ほで行うなど病害発生の回避に努める。
6. シカによる食害が発生する地域では対策を行う。

### [期待される効果]

1. タラノキを用いて栽培管理を行うことにより、中山間地など耕作放棄地の解消が図られる。
2. 農産物直売所などで地元農産物の消費や売上が伸び、農家経営の一助となる。

[具体的データ]

表1 防草シート設置がタラノキの生育に及ぼす影響(2011年)

防草シートの有無	樹高 <sup>z)</sup> (cm)	株張り <sup>y)</sup> (cm)	欠株率 <sup>x)</sup> (%)	被度 <sup>w)</sup> (%)
有	106.1 ± 32.6	87.5 ± 22.5	26	50
無	93.2 ± 31.7	74.2 ± 25.8	50	10

z, y, x: 調査日: 2011/8/17, z, y: 数値は、調査株の平均±標準偏差  
z: 地際から先端までの長さ  
y: 葉の広がり具合(茎から葉の先端までの水平方向の直径)  
w: 調査日: 2011/9/6、タラノキ茎葉がほ場を覆っている割合  
耕種概要 植え付け(根挿し): 2008/5/9  
刈払い: 2010年は7月4日、2011年は7月14日に実施

表2 耕作放棄地におけるタラノメの収量(2010、2011年)

年生	収量 <sup>z)</sup> (kg/10a)
2年生	33.9
3年生	61.6

※数値は防草シート区において  
補植をして500株/10aとしたときの換算値  
調査日 2年生: 2010/5/8~5/31  
3年生: 2011/5/4~6/6  
耕種概要は表1と同様

	1~3月	4月	5月	6月	7月	8~12月
一年目	雑草刈払い もしくは 前年度除草剤 散布	種根植付 防草シート設置 △○ 施肥	(育苗)	補植苗定植	雑草刈払い	
二年目		収穫 施肥 □□×△	雑草刈払い			
三年目以降		収穫 施肥 □□□×△	雑草刈払い			

※スミチオン乳剤100倍液散布によるセンノカミキリ防除

図1 タラノキを利用した耕作放棄地管理モデル

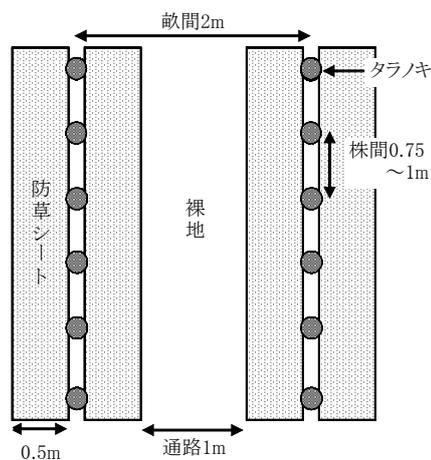


図2 栽植図

表3 作業時間(植え付け後3年間)

作業名	作業時間(hr/10a)		
	1年目	2年目	3年目
圃場準備 (刈払い・残渣片付・除草剤散布)	133.3		
育苗	3.0		
植え付け(補植含む)	4.3		
施肥	0.8	1.0	1.0
防草シート設置	30.0		
除草	6.7	6.7	6.7
防除・剪定 <sup>z)</sup>		20.6	20.6
収穫・調整・出荷 <sup>y)</sup>		26.0	64.4
計	178.1	54.3	92.7

※3割欠株となり、補植したときの値  
z: 欠株率からの算出値、y: 収量からの算出値

表4 経営試算(植え付け後3年間)

費目	円/10a		
	1年目	2年目	3年目
所得	-133,948	97,407	205,906
売上	0	141,860	264,806
経費	133,948	44,454	58,900
(経費内訳)			
種根 <sup>z)</sup>	78,000		
資材(植付時)	35,758		
資材(肥料等)	20,190	21,537	21,537
出荷経費		22,917	37,363

※栽植密度500株とし、補植を実施したときの試算

[その他]

研究課題名: 新規山菜類の選定と栽培技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2008 ~ 2011 年度

研究担当者: 石川寛人、窪田哲、對木啓介